

## 平和の種を植えよう！Kids ゲルニカ プロジェクト

丁子かおる（和歌山大学教育学部）

堀本純平（和歌山市立藤戸台小学校 校長） 福本康大（和歌山市立藤戸台小学校）

井上としみ（和歌山市立藤戸台小学校） 今高 淳（和歌山市立藤戸台小学校）

奥野亜紀（和歌山市立藤戸台小学校） 小川菜々子（藤戸台小学校）

### 1. 研究の背景と目的

2023 年は、ウクライナではロシアとウクライナが、パレスチナ自治区ガザではイスラエルとイスラム組織ハマスの戦闘が続き、テレビや新聞などのメディアを通して、こうした争いと共に、泣き叫ぶ子どもや廃墟、食料や物資の不足を耐え、空爆に怯える人々の姿が毎日のように報道されている。こうした映像を小さな子ども達も日々、目にしている状況がある。そこで、藤戸台小学校校長堀本先生と相談し、将来を担う子どもたちの平和学習として、キッズゲルニカ・プロジェクトを実施することとなった。

キッズゲルニカについて web ページ<sup>1</sup>を基に説明する。「キッズゲルニカはピカソの『ゲルニカ』と同じ大きさのキャンバス（3.5m × 7.8m）に子どもたちが平和の絵を描くという国際的なアート・プロジェクト」である。ゲルニカは、パブロ・ピカソによって「1937 年、スペイン市民戦争のときに起きた爆撃の残虐さに抗議して、『ゲルニカ』の作品を制作」された作品である。それまで移動できなかった壁画が布である「キャンバスの上に描かれているので、パリからロンドン、ニューヨーク、そしてマドリッドへと運ぶことが可能に」なったという。そこから、世界の平和というものは、国家・人種・宗教・文化そして人々の中の「隔たり」をなくすところから始まることをコンセプトに、「キッズゲルニカは地球全体をキャンバスにして平和の精神を表現し、人々をつなげていくアート」とし、「すでに 45 ヶ国で 210 点以上の平和の絵が制作されている<sup>2</sup>。筆頭筆者は、終戦後 50 年にあたる 1995 年に国内では最初に実施されたこのプロジェクトでも共同で運営を行った<sup>3</sup>。

このプロジェクトは、小学校 5・6 年生下の図画工作科教科書（日本文教出版社）に表現や鑑賞題材としても掲載され、総合学習と関連づけて実践されることが多い題材である。ただし、戦争を毎日のように目にする状況では、言葉にできないもどかしさ、辛さなどを抱える子どもたちは低年齢から幅広くいると思われる。そこで、本プロジェクトを通して学級の教師や友達と共に考える機会を持ち、一人一人がそれぞれに絵や言葉で思いを表せるよう、また、平和を願うことの大切さに気付いてもらいたいとプロジェクトを計画した。

### 2. 研究の対象と方法

このプロジェクトに参加したのは、藤戸台小学校 事前学習 藤戸台小学校 1 年 1 組～5 組の 151 名の児童と、平和についての取り組みを行っているかぜのこ保育園年長児 17 名

<sup>1</sup> キッズゲルニカ, <https://kids-guernica.com>, <https://kids-guernica-jp.blogspot.com> (2023 年 1 月 5 日現在)

<sup>2</sup> 同上

<sup>3</sup> このプロジェクトが発案され実施された日本の終戦後 50 年にあたる 1995 年に、初回はアメリカのタラハシー市でフロリダ州立大学の Tom Anderson らが実施し、次いで 8 月には徳島県立近代美術館で大阪女子大学の阿部寿文と筆者らは、参加を希望する徳島県内の学校と子どもたちにワークショップを企画・運営を行っており、2 度目の実施となった。

表 1 実施日程詳細

	藤戸台小 (かぜのこ保)	準備及び実施内容	和歌山大学	準備
1	10月	藤戸台小 平和について考え共通理解 し、「平和の種」を構想す る(図工科:2時間)		
2			10/5(木)午前	下絵相談(3・4年生)
3			10/7~9	生地縫い合わせ
4			10/19(木)午後	布に下地(ジェッソ) 塗る(3・4年生)
5			10/20(金)午前	片付け(3年生)
6			10/23(月)5限	基底線を描く(久保)
7	10/24(火) 14:30	藤戸台小 布地受けとり	10/24(火)14:30	布地受け渡し
8	10/26(木)夕方	藤戸台小 体育館にて布地 設置	10/26(木)午後	藤戸台小会議室1 絵の具等準備
9	10/26(金) 8:45~9:30	藤戸台小1年1・2組 キッズゲルニカ		藤戸台小 キッズゲルニカ
10	10/26(金) 8:45~9:30	藤戸台小1年3・4組 キッズゲルニカ		藤戸台小キッズゲルニ カ
11	10/26(金) 8:45~9:30	藤戸台小1年5組 キッズゲルニカ		藤戸台小キッズゲルニ カ
12	10/31(火)	かぜのこ保 布地受け渡し	10/31(火)	布地受けとり
13	11/1(水) 9:15~11:30	かぜのこ保 年長キッズゲルニカ		かぜのこ保(小西) キッズゲルニカ
14	11/13(月)		11/13(月)	布地受けとり
15	11/15(水)~ 18(土)	かぜのこ保 吊り下げ部縫 い付け		
16	11/20(月)	かぜのこ保 布地受け渡し	11/20(月)	布地受けとり
17			11/27(月)3限	吊り下げ部縫い付け
18			11/30(金)3限	絵の調整 (2・3・4年生)
19			12/1(金)	片付け

である。そして、プロジェクトの企画・運営は共同研究を行う教員、藤戸台小学校校長及び1年生の担任5名と和歌山大学教育学部幼児教育専攻2・3・4年生の学生と教員である。また、かぜのこ保育園西原咲子先生と5歳児くじら組担任武内久実先生及び職員の先生方のご協力を得て実施した。

プロジェクトの工程については、表1にまとめた。企画については、堀本先生と丁子でコンセプトを決め、それを基に和歌山大学幼児教育専攻3・4年生と相談をし、学生リーダーである久保結海さんを中心に下絵の原案について提案を行い、小学校教員との協議の上で下絵及び進行について決定を行った。

### 1) 学習上の工夫

小学校1年生が戦争や平和を身近なものとして捉えるために、事前に学級で戦争と平和に関する絵本『へいわってすてきだね』『平和ってどんなこと?』『ぞうれっしゃがやってきた』を読んだり、自分にとっての平和とは何か、自分にとっての大切なもの・好きなものを学級で考えてもらったりして、下絵を描いてもらった。

平和は「たのしい、うれしい、おもしろい、ほしいものがもらえる、しあわせ、いやなきもちではない、好き、好きなことができる、ともだちとあそべる」というイメージで、「いやなことなど、なんにもおこらないこと」という普通に暮らせることに目を向けた意見があった。そこから「かぞく、えがお、くるま、すきなたべもの、生き物、ぬいぐるみ、クラスのみんな」が大切なものとして意見があったという。

### 2) 指導上の工夫

小学校1年生と保育園年長児という低年齢の児童及び幼児では、事前に構図や下絵を完全に決めてから完成させる「壁画」を作成することは通常は困難である。そこで、低年齢の児童及び幼児、約170人の共同壁画作成のため、今回は共通のテーマを設けた。子どもたち一人一人に自分を「種」に例えて形、色を考えてもらい、その後、「その種から平和の樹を育てよう!」と投げかけ、「平和の樹や、咲く花、なる実」を考えて描いてもらうことにした。

また、低学年の児童における描画の特徴とされる地面の線を表す「基底線」を渦巻き状に事前に描いておき、児童や幼児が好きな場所のどこにでも行って描けるようにした。

そして、下地には布全面にジェッソを塗って絵の具が沁みないようにし、多色の描きやすい濃度のポスターカラーを用意した。絵の具は紙パックに持ち手をつけたカバン状にし、牛乳アレルギーのある児童のいるクラスでは

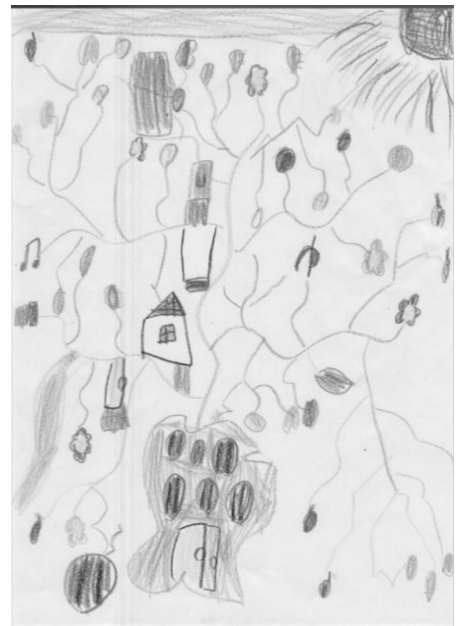


図1. 平和の樹



図2. 平和の種から小学校が生えてきたよ

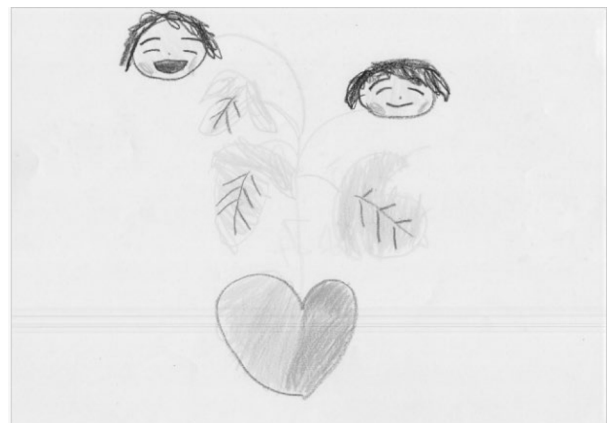


図3. 笑顔

プラスチックカップに取り分けて用意し、持ち運びしやすいようにしている。

### 3. プロジェクトの結果

キッズゲルニカ当日は、子どもたちが各々に描きたい平和の種や平和の樹、花、そこになるものとして笑顔やおやつ、家など平和につながるものを描いた。振り返りでたくさんのキャンディを描いた児童にその理由を尋ねたところ、「たくさんの人にこのキャンディを食べて笑顔になってほしい」、水がなる樹を描いた児童はその理由に「(水が飲めなくて困っている人がいるので) この水をみんなに飲んでもらって世界が平和になってほしい」と話していた。

また、児童が書いた振り返りでは、楽しかったという言葉がとても多く、同時に自分なりに描いたモチーフと共に平和を願う言葉が多く記載されていた。アートと共に平和への思いを育む実践になったと思われる。

謝辞 布地は、大阪市の北浦 皓弍様・一美様よりご寄付を、一部絵の具はサクラクレパス様より協賛いただきました。心より感謝いたします。 (研究協力：かぜのこ保育園、和歌山大学教育学部4年 泉綾香、越智彩愛、木村真菜、久保結海、小西瞳、小船真子、山田萌花、3年 柴田涼香、竹内汐里、森田未来、2年 青木ふあり、三木清香、向井愛羅)



図4・5. キッズゲルニカの様子

